

(2) 次代を担う青少年の育成

心豊かでたくましい青少年の育成に努める。

- ア 青少年の体験活動の充実
- イ 青少年のキャリア形成の支援
- ウ 子どもの読書活動の充実

生涯学習課

子どもの読書活動推進事業

[事業目的及び概要]

子どもの読書活動の大切さと、子どもの読書活動推進のための環境整備に家庭や地域で取り組むことの必要性を伝えることを目的として、広報活動、研修会、イベント等を実施する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 子どもの読書活動啓発小冊子の活用

乳幼児の保護者等に向けた子どもの読書活動啓発のための小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」を市町村が行うブックスタート事業等での活用のために提供したほか、幼稚園・保育所等で開催される保護者研修会や読み聞かせ研修会等に、テキストとして提供した。また、研修会等の主催者が希望した場合、「親子ふれあい読書アドバイザー」を講師として斡旋した。

○ブックスタート事業等への提供：7市町村 延べ1,090冊

○保護者研修会等への提供：13市町村 23か所 延べ1,235冊 研修会参加人数 783名
親子ふれあい読書アドバイザー 延べ21名

(2) 地区別読書活動推進研修・交流会の開催

青森県読書団体連絡協議会の各地区組織と連携した研修会を開催し、親子ふれあい読書アドバイザーを新たに19名養成、登録した。(累計374名)

	地区	開催日	会場	内 容		受講者数	実参加者数
基礎編	下北	10/10 (木)	むつ市立図書館	午前	実演 「親子ふれあい読書アドバイザーの実際」 ・保護者会でのお話&読み聞かせ 講師：JPIC 読書アドバイザー 高嶋 敬子	15名	24名
				午後	講義・演習 「子どもと楽しむための読み聞かせレッスン♪」 ・読み聞かせの基礎・選書・プログラムの作り方 ・読み聞かせをやってみよう！ 講師：JPIC 読書アドバイザー 高嶋 敬子	24名	
	東青	10/23 (水)	蓬田村ふるさと総合センター	午前	実演「親子ふれあい読書アドバイザーの実際」 ・保護者会でのお話&読み聞かせ 講師：JPIC 読書アドバイザー 高嶋 敬子	25名	35名
				午後	講義・演習「だれでもできるよ『楽しい読み聞かせ』」 ・小学校での読み聞かせ実演 ・おはなし会のプログラムづくり ・おはなし会をやってみよう 講師：JPIC 読書アドバイザー 高嶋 敬子	32名	
	西北	11/16 (日)	農村環境改善センター「豊明館」	午前	実演「親子ふれあい読書アドバイザーの実際」 ・保護者会でのお話&読み聞かせ 講師：おはなしちゃんこなべ 秋田 敏博	36名	54名
				午後	講義「勇気を出して！初めての読み聞かせ」 ・読み聞かせの基礎トレーニング ・紙芝居、手遊び歌 ・個性を生かした読み聞かせ～やってみよう！～ 講師：車力村読書サークル代表 北澤 由美子 ABAアナウンサー 対馬 孝之	50名	

スキルアップ編	中南	9/20 (金)	平川市文化センター内 平賀公民館	午前	実演・演習 「親子ふれあい読書アドバイザーの実際」 ・アドバイザーとしての心構え ・模擬保護者会1（講義・グループ演習） ※小学生（園児）と保護者向けのおはなし会形式 講師：アイウエオの木 絵本の会代表 大友 栄子	25名	30名
				午後	演習・模擬保護者会2（発表） 講義「より伝わりやすい読み聞かせの表現方法」 ・読み聞かせのクオリティを高めるとは？ ・選書、本の紹介 講師：グループかぜ 代表 谷 京子	30名	
	三八	10/2 (水)	八戸ポータルミュージアムはっち	午前	実演・演習 「親子ふれあい読書アドバイザーの実際」 ・アドバイザーとしての心構え ・模擬保護者会1（実演） ・模擬保護者会2（グループ演習） 講師：おはなしるんるん 高嶋 敬子	35名	48名
				午後	実技・演習 「プログラムの作り方～おはなし会を楽しくするために～」 ・プログラム作成のワンポイントアドバイス ・もっと楽しくするための手遊びなど 講師：JPIC 読書アドバイザー 安富 ゆかり	44名	
	上北	10/5 (土)	三沢市立図書館	午前	実演・演習 「親子ふれあい読書アドバイザーの実際」 ・アドバイザーとしての心構え ・模擬保護者会1（講義・実演） ・模擬保護者会2（グループ演習） 講師：おはなしちゃんこなべ 秋田 敏博	31名	46名
				午後	実演 「おいで おいで パネルシアターであ・そ・ぼ」 ・パネルシアターとは ・製作の仕方 ・パネルシアターの実演 講師：パネル劇場「ばねるっぱ」主宰 関 稚子	46名	
計						211名	237名

(3) 子どもの読書活動推進県民大会の開催

地域ぐるみで子どもの読書環境を整え、子どもの読書習慣の形成と豊かな心の育成を図る機運を高めるための県民大会を開催した。

○開催日：11/2(土)

○場 所：県総合社会教育センター

○参加人数：ものがたりライブ70名、体験コーナー等累計252名

○内 容 等：ものがたりライブ

講師 児童文学作家 杉山 亮

「読む」「聞く」「見る」「作る」「学ぶ」といった本にかかわる様々な体験コーナーの実施

	コーナー名	内 容	講 師
聞く	杉山亮さんの講演	書き手としての思いと、「子ども」と「本」をキーワードにしたお話	児童文学作家 杉山 亮
	読み聞かせりレー	読み聞かせ、手遊び	(社)八戸市読書団体連合会 松井 京子
		むかし語り	むかし話っこ語りびと 「なやわや」 相馬 邦子 最上 とし 島 百合子

聞く	読み聞かせリレー	パネルシアターほか	おはなしるんるん (弘前市) 斎藤 真琴 野呂 美穂子
		外国語による読み聞かせほか	国際文化交流クラブ シマ・トリュアクサ (インドネシア) ジョー・アベリ (アメリカ)
		紙芝居ほか	おはなしこっこん (平川市) 工藤 菊江 今井 千都子 工藤 華代
見る	科学の実験	ホテルの光を人工的に作る実験	県立青森南高等学校 教諭 八木橋 奈央 ◎読み聞かせ/高嶋 敬子
	図書館探検	ふだんは入ることができない県立図書館のいろいろな部屋の見学	県立図書館職員
作る	工作	豆本やキャラクター折り紙作り スチレンペーパーでの2種類のグライダー作り	チーム鼻(ふくろう)奈良 容子他 生涯学習課職員 ◎読み聞かせ/秋田 敏博
	親子料理教室	「ぐりとぐらのかすてら」作りと試食会	アイウエオ絵本の会 大友 栄子 福士 千和 大湯 博子 松下 ゆかり他
読む	読む	子どもの読書活動啓発小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」に掲載している絵本の展示	
学ぶ	読書のアニメーション	アニメーション(ゲームや遊びを通して読書に親しみ、楽しみながら読解力を伸ばす読書指導)の実際に関する学び	青森アニメーションクラブ 佐々木 あさ子 若松 由花
	学校図書館相談コーナー	学校図書館に関するお悩み相談コーナー ※県立図書館所蔵の「しかけ絵本」の展示	県立図書館職員

【成果と課題】

研修会やブックスタート事業において、子どもの読書活動啓発小冊子をテキストとして活用することが定着しつつあり、小冊子を提供している研修会の種類及び冊数は増えている。また、9月には、さらなる活用の促進をめざし、対象を小学校低学年まで広げた絵本リストの掲載と内容の検討を行った改定版を発行したところである。さらに、小冊子の市町村のブックスタートである乳幼児検診時における小冊子のプレゼントや読み聞かせ活動等を進めるため、小冊子未活用の27市町村へ冊子を提供し、活用促進を図った。

また、今年度、基礎編とスキルアップ編に分けて実施した地区別読書活動推進研修・交流会は、県外講師を招いて行ったスキルアップ編の参加者が増え、活動者が求める学びを提供することができた。県民大会においても多数の参加者があったことから、子どもの読書活動の大切さと、子どもの読書活動推進のための環境整備に家庭や地域で取り組むことの必要性を伝える目的は概ね達成できた。

今後の課題としては、小学校での啓発小冊子活用を呼びかけるとともに、地区別読書活動推進研修・交流会における研修内容の充実、親子ふれあい読書アドバイザーの交流や県民大会への協力等について検討し、アドバイザーの意欲向上と活動の活性化を促す必要がある。

地域の教育力によるたくましい高校生育成事業(共通研修)【新規】

【事業目的及び概要】

将来、社会人として自立した力を身に付けたたくましい人財の育成を目的として、高校生が主体的に地域と関わることで地域資源に関する理解や地域への愛情を深めるとともに、社会参画意識を高める取組を行う事業である。(学校教育課との連携により実施)

【事業内容及び結果】(生涯学習課所管部分のみ)

キックオフ研修(共通研修)

活動意義や目的についての研修及び事業の効果的な実施のための担当教員の研修を行った。

○開催日：6/13(木)

○場 所：県総合社会教育センター

○参加者数：256名

○内 容：事業説明

講演「壁があつたら、穴を開けろ！まちおこしゲリラからのメッセージ」

講師 青森県教育委員会教育委員 まちおこしゲリラ集団 代表 島 康子

トーク&ライブ「先輩はミュージシャン 坂本サトル Talk&live」

講師 ミュージシャン 坂本 サトル

[成果と課題]

共通研修をとおして、活動意義や目的について理解を深めるとともに、地域に出て活動することの大切さを考え、今後の活動への意欲付けとなった。今後、共通研修を開催するに当たっては、事業を実施する11の推進校が参加しやすい時期と内容を決定する必要がある。

いじめ根絶キャンペーン推進事業

[事業目的及び概要]

すべての学校・家庭・地域社会において、子どもの人権に関わる理解と認識を深めることを目的として、いじめ根絶等に向けた県民レベルの具体的な取組を一層強化するとともに、いじめ根絶等に向けた県民に対するキャンペーン等を幅広く展開する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) いじめ根絶キャンペーンCM原作コンクール

中学生、高校生、一般県民からいじめ根絶テレビCMの原作を募集した。

○募集期間：5/7(火)～6/28(金)

○応募数：292点(中学校270点、高等学校19点、一般3点)

※参考 平成21年からの応募状況

年度	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	学校数	作品数	学校数	作品数	学校数	作品数	学校数	作品数	学校数	作品数
中学校	18	214	15	230	22	517	24	533	19	270
高 校	17	96	5	22	5	22	13	46	4	19
一 般										3
合 計	35	310	20	252	27	539	37	579	23	292

(2) いじめ根絶キャンペーンCM原作コンクール審査会

応募作品の中から優秀作品9本を選定し、表彰した。

○開催日：7/16(火)

○受賞作品一覧

	受 賞 者		作 品 名
	学 校 名	団体名・個人氏名	
中 学 校	青森市立荒川中学校	3年 吉田 愛香音	助け合う 気働きの心
	野辺地町立野辺地中学校	2年 蛭澤 舞	ネットいじめ
	八戸市立白山台中学校	1年 間山佳乃子	いじめはみつかる
	十和田市立第一中学校	生徒会執行部 代表 3年 漆坂 平	私たちが咲かせる。希望の花
	十和田市立第一中学校	生徒会執行部 代表 3年 漆坂 平	闇の中
	青森市立古川中学校	JUMPチーム 代表 3年 田中 夢乃	勇気
高 等 学 校	青森県立青森工業高等学校	3年 豊川 実沙樹	気付け。
	青森県立青森工業高等学校	3年 大島 美樹	ただ…
	青森県立青森工業高等学校	1年 木村 美紅	気づかない私

- (3) 「いじめ根絶キャンペーン」テレビCM制作・放送業務委託企画審査会
 企画審査会参加業者が各々優秀賞9本から選んだ1本を原案としたいじめ根絶CMの企画を提案し、審査によりCM原案1点を選定した。
 ○開催日：9/2(月)
 ○企画名：ネットいじめ（野辺地町立野辺地中学校 2年 蛭澤 舞）
 ○制作：株式会社アール・エー・ビーサービス
 ○放送：青森放送株式会社
- (4) 「いじめ根絶キャンペーン」テレビCM放送
 ア 放送
 ○県放送分：46回 11/1(金)～30(土)までの1ヶ月間放送
 ○独自提案分：20回 県放送分と同じ期間に放送
 イ CM放送に併せた独自の取組
 ○放送業者HPへのバナー広告(11/1～30)
 ○情報番組内でのCM等の紹介(1回)
 ○天気予報コーナーでのキャンペーンの紹介(6回)
- (5) いじめ根絶セミナー
 いじめの現状やいじめ根絶に向けた取組等に関するセミナーを開催した。
 ○対象：小・中・高校生を持つ親、一般県民
 ○委託団体：県内社会教育団体（青森県PTA連合会、青森県高等学校PTA連合会、青森県特別支援学校PTA連合会）

【成果と課題】

いじめ根絶CM原作コンクールでは、変化の激しい社会を反映した応募作品が寄せられ、同年代の中高生が共感やいじめ根絶に向けた認識を深めることができた。また、CM企画コンペでは、参加業者を拡大し、取組を周知・広報することにより、幅広い展開及び県民意識の高揚につなげることができた。今後は、保護者等のいじめ根絶への意識を一層高めるため、各PTA連合会等との連携を図りながらいじめ根絶に向けた学習会への支援や情報提供を行う必要がある。

障害者青年学級開設

【事業目的及び概要】

特別支援学校卒業後の障害のある青年たちが、社会性や生活技術・知識を身に付けたり、仲間づくりを行うための集団学習や趣味の講座やレクリエーションなどで他の卒業生や在校生、学校のある地域の人たちなどと交流する機会を提供することをとおして、自立と社会参加を支援し、社会性の向上をめざす事業である。

【事業内容及び結果】

学級名	期間	開催場所	回数	時間	参加者数	主 な 内 容
視覚障害青年学級	6月～11月	県立盲学校	3	10	23	運動会参加、県盲祭参加、りんごもぎ体験
	5月～10月	八戸盲学校	5	14	42	組織作り、芸術教室(合唱)、学習発表会参観・参加
病虚弱青年学級	6月～12月	青森若葉養護学校	4	15	35	運動会参加、親睦旅行、若葉祭参加、卒業生のつどい(調理)
	6月～1月	浪岡養護学校	12	17	49	運動会参加、DVD鑑賞会、成人を祝う会、しらかば学級クラス会、音楽鑑賞教室
肢体不自由青年学級	5月～10月	弘前第二養護学校	4	14	27	運動会参加、合同ねぷた祭り、ふれあいコンサート、学習発表会鑑賞・出演、ミニバザー参加
	5月～11月	八戸第一養護学校	3	13	95	レクリエーション、成人を祝う会・夏を楽しむ会、カラオケ会
	6月～11月	青森第一高等養護学校	3	10	70	運動会参加、小物製作体験、めいせい祭参加

学級名	期間	開催場所	回数	時間	参加者数	主 な 内 容
知的障害 青年学級	6月～ 1月	青森第二 養護学校	4	15	168	はじめのつどい、ワラッセ見学、二養祭参加、 おわりのつどい(ボウリング)
	5月～ 11月	弘前第一 養護学校	4	19	94	運動会参加、総会・親睦会、親睦旅行、学習発 表会鑑賞
	6月～ 10月	八戸第二 養護学校	2	10	158	卒業生の集い、卒業生と在校生との交流会(成 人を祝う会、レクリエーション)
	7月～ 12月	森田 養護学校	3	12	78	サッカー体験、森養祭参加、バス遠足(公共施 設でのマナー)
	6月～ 10月	黒石 養護学校	3	14	74	映画鑑賞、軽スポーツを楽しもう(エアロビク ス)、親睦旅行(施設の利用の仕方等を学ぶ)
	6月～ 10月	むつ 養護学校	3	11	102	運動会参加、卒業生のつどい(スポーツレクリ エーション)、ふれあいボウリング大会
	6月～ 10月	七戸 養護学校	3	14	133	同窓会総会、成人を祝う会、バス旅行(公共の 場での活動やマナーを学ぶ)
	6月～ 10月	青森第二 高等養護 学校	4	19	254	レクリエーション(ヨガストレッチ)、二高養祭 参加、地域ブロック活動、同窓生のつどい
	合計	のべ回数 60 回		のべ時間 207 時間		参加者数合計 1,402 人

【成果と課題】

外に出る機会の少ない学級生に、音楽鑑賞を通して、演奏してくれた大学生とふれあう機会を作ったり、市町村の成人式に参加できない学級生の成人を祝う会を催すなど、交流の場を提供している。

また、公共施設へ出かけることで、施設の利用におけるマナーを学びながら親睦を図ったり、学校行事への参加を楽しみにしている学級生が、来校時に同窓生や先生との近況報告や情報交換をするなど、社会参加のきっかけとなっている。

総合社会教育センター

高校生スキルアッププログラム推進事業

【事業目的及び概要】

高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し逞しく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的とし、学校外における学習への積極的な取組を推進する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 高校生スキルアッププログラムの運営

(2) 担当教員研修の実施

「キャリア教育研修会」の開催（高大連携キャリアサポート推進事業と共催）

○開催日：11/27(水)

○会 場：県総合社会教育センター

○対 象：高校生スキルアッププログラム担当教員

○参加者：27校30名

○内 容：講 演 「進学とキャリア形成」

八戸学院大学 副学長 丹羽 浩正

事例発表 高校生スキルアッププログラム推進事業

青森県立田名部高等学校 臨時講師 宮野 健一

高大連携キャリアサポート推進事業

青森県立弘前中央高等学校 教諭 野呂 直宏

(3) 評価サービス

平成 25 年度参加学校・参加生徒数・認定証交付者数

地区	学校数	参加生徒数	認定証交付者数
東青	5 校	954 名	2 名
西北	1 校	4 名	0 名
中南	2 校	49 名	1 名
上北	1 校	10 名	1 名
下北	2 校	420 名	17 名
三八	7 校	851 名	1 名
合計	18 校	2,288 名	22 名

[成果と課題]

高校生を対象にボランティア講習会を実施したところ、学校外学習として学んだ技術を生かした社会参加活動に励む生徒が増加した。講習会でスキルを学ぶことは、社会参加活動に取り組みやすくし、コミュニケーションが円滑に取れる点で大きな効果があった。

今後は、より多くの高校生が学校外学習に参加できるよう学習情報収集・提供の機会を増やす必要がある。

高大連携キャリアサポート推進事業

[事業目的及び概要]

高校生の主体性や意欲を引き出すとともに、チャレンジする心を育むことを目的として、所定の研修を修了した大学生によるワークショップを計画的に実施する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) ワークショップ「キャリアサポ」の実施

- ア 実施高等学校数 22 校
- イ 参加高校生数 3,454 名
- ウ 延べ参加大学生数 931 名

No.	月日	実施校	参加高校生	参加大学生
1	6/ 8(土)	三沢高校	1 学年(6 クラス 240 名)	69 名
2	6/15(土)	青森北高校	3 学年(3 クラス 100 名)	36 名
3	6/15(土)	三戸高校	2 学年(2 クラス 60 名)	26 名
4	6/29(土)	青森東高校	2 学年(7 クラス 280 名)	78 名
5	8/27(火)	八戸西高校	1 学年(5 クラス 200 名)	55 名
6	8/28(水)	五所川原農林高校	2 学年 5 クラス 200 名)	47 名
7	8/30(金)	弘前中央高校	1 学年(6 クラス 240 名)	57 名
8	8/31(土)	黒石商業高校	1 学年(4 クラス 160 名)	45 名
9	9/ 2(月)	大湊高校	2 学年(5 クラス 200 名)	43 名
10	9/ 3(火)	三沢商業高校	2 学年(5 クラス 200 名)	46 名
11	9/ 5(木)	青森中央高校	1 学年(5 クラス 200 名)	48 名
12	9/ 6(金)	五戸高校	1 学年(2 クラス 70 名)	16 名
13	9/ 6(金)	弘前実業高校藤崎校舎	2 学年(1 クラス 40 名)	18 名
14	9/ 9(月)	田名部高校	1 学年(5 クラス 200 名)	42 名
15	9/10(火)	七戸高校	1 学年(4 クラス 160 名)	43 名
16	9/10(火)	木造高校深浦校舎	1・2 学年(2 クラス 45 名)	18 名
17	9/12(木)	むつ工業高校	1 学年(5 クラス 175 名)	39 名
18	9/13(金)	青森西高校	1 学年(6 クラス 240 名)	56 名
19	11/ 9(土)	大湊高校川内校舎	1・2・3 学年(3 クラス 98 名)	36 名
20	11/10(日)	中里高校	2 学年(2 クラス 37 名)	25 名
21	11/16(土)	三本木高校	1 学年(6 クラス 240 名)	56 名
22	3/ 7(金)	大間高校	2 学年(2 クラス 69 名)	32 名

(2) キャリア形成の支援

- ア 実施校担当者連絡会議(5/22)
- イ 大学生会議(5/12, 9/29, 3/19)
- ウ 高大関係者意見交換会(12/24)

- エ 実施校担当者等研修会(11/27)
- オ 大学生対象研修会の開催
 - 基本研修(計10回) 延べ受講者数210名
 - 応用研修(計5回) 受講者数50名

[成果と課題]

多くの大学生からの働きかけにより、高校生の意欲を引き出すワークショップ「キャリアサポ」を計画的、組織的かつ持続的に実施するための仕組みを安定的に維持することができた。また、ワークショップ実施後のアンケートにおいては、多くの高校生・教員から好評を得ることができた。

今後は、さらにキャリア形成の支援を推進するために、高校におけるワークショップをより効果的にするための活用策の確立、参加大学生の安定的確保、ワークショッププログラムの充実などの課題解決に取り組む必要がある。

未来の青森県を担う若人育成講座

[事業目的及び概要]

青少年が自らの思いを社会の中で実現させる行動力を身につけることを目的として、地域活動や学校でリーダー的な役割を担っている青少年を対象に、自主性やリーダーの資質を高める講座を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 事業内容：対象地域 東青・下北地域 交流地域 上北・三八地域

第1講座 自分や仲間のよさを知る講座

【6/29(土)～30(日) むつ市下北自然の家(東青・下北合同)】

演習「人間関係づくり」

指導：県総合社会教育センター職員

講義「全力をつくすこと、困難に立ち向かうこと、自分を認め、チャレンジすることの大切さ」

講師：長野・ソルトレイクパラリンピック日本代表 田中哲也 氏

講義・演習「地域活動とものづくりについて」「未来予想図作成」

指導：県総合社会教育センター職員

第2講座 グループ運営方法を学ぶ講座

【7/14(日) むつ市民体育館(下北) 7/21(日) 平内町中央公民館(東青)】

講座「コミュニケーション力を知る」

講師：(東青)弘前大学学生就職支援センター副センター長 准教授 小磯 重隆 氏

講師：(下北)八戸学院大学副学長 ビジネス学部長 教授 丹羽 浩正 氏

講座「青少年の地域活動について」

講師：(東青)平内町子ども会育成連絡協議会 田中 聡 氏

講師：(下北)曹洞宗円祥山大安寺 僧侶 長岡 俊成 氏

第3講座 地域の実践活動を体験し、仲間と企画を立てる講座

【7/27(土)～28(日) 平内町中央公民館(東青・下北合同)】

体験活動「地域の実践活動に参加しよう」

(伝統芸能体験／地域特産品食品加工体験／農業野菜収穫体験

／酪農乳牛の世話、搾乳体験)

演習「地域体験活動のまとめ」「団体実践活動企画立案とシミュレーション①」

指導：県総合社会教育センター職員

第4講座 各地域でのプレ実践活動

【9/7(土) 平内町中央公民館(東青) 9/14(土) むつ来さまい館(下北)】

演習「個人の実践活動を企画する」「団体実践活動シミュレーション②」

指導：県総合社会教育センター職員

助言者：(東青)平内町子ども会育成連絡協議会 田中 聡 氏

助言者：(下北)曹洞宗円祥山大安寺 僧侶 長岡 俊成 氏

第5講座 各チームにおける実践活動

【10/5(土) 県総合社会教育センター(東青・下北合同)】

企画実践「各チームにおける実践活動とふりかえり」

「生涯学習フェア訪問」

25年度事業の実績

第6講座 地域での実践活動企画

【11/2(土) 平内町中央公民館(東青) 11/3(日) むつ市民体育館(下北)】

演習「自分の地域実践活動発表と相互アドバイス」

指導：県総合社会教育センター職員

講義(東青)「地域活動『東北 Techno music festival 清水目音夜祭』について」

講師：上十三若者ネットワーク「9根」実行委員長 原田惇 氏

講義(下北)「『わい LOVE むつ』から『わいど LOVE むつ』へ」

講師：青森社会福祉振興団特別養護老人ホームみちのく荘 人材部 向井 正大 氏

第7講座 隣接地域との交流

【12/14(土)～15(日) 公立小川原湖青年の家 <東青・下北合同>】

演習「人間関係づくりの体験プログラム」

指導：県総合社会教育センター職員

活動発表「これまでの企画実践紹介」

講義・演習「カプラによる人づくり」

講師：カプラ名人・魚家金兵衛 店長 金澤 正博氏

(2) 対象地域の申込人数 53名(東青・下北地域)

(3) 交流地域の申込人数 23名(上北・三八地域)

【成果と課題】

受講生にコミュニケーション能力の向上が見られた。また、他地域との合同講座や近隣地域との交流講座を効果的に配置し、広い地域での受講生間の交流があり、互いに学び教え合う積極的な姿勢が認められた。

高校生に対し中学生の受講生の割合が少ない。中・高校の行事予定を十分配慮し、より多くの世代が参加できるよう開催日を決定する必要がある。

県立図書館

子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

【事業の目的及び概要】

子どもの読書活動の環境づくりを進めることを目的とし、市町村立図書館等に対して図書セットを貸出し、学校等に配本する事業である。

【事業内容及び結果】

○貸出先市町村立図書館等 前期 25 後期 24

図書セットの内容	利用対象	前期		後期	
		配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
1 小学校	低学年	55	3,560	49	3,380
	中学年	54	3,580	49	3,460
	高学年	53	3,400	48	3,240
2 中学校	中学校	7	580	6	560
3 読み聞かせ絵本 児童書等	保育所等	47	5,280	48	5,190
4 大型絵本	読み聞かせ活動者	54	825	48	765
5 テーマ別 図書セット	小・中学校 特別支援学校	6	350	6	286

【成果と課題】

常に新しい本を利用してもらえるように、小学校及び読み聞かせ絵本の図書セットに入っている本の入れ替えを行った。

次年度は他の図書セットの本の入れ替えを行い、利用増加を図りたい。

梵珠少年自然の家

在学少年宿泊指導者研修

【事業目的及び概要】

少年自然の家での宿泊学習や自然教室等を利用団体が効果的にを行うことを目的として、活動プログラムの内容や、施設・設備の利用の仕方等について研修するとともに、利用する際の日課表を作成する事業である。

【事業内容及び結果】

期日	対象	参加者数	内容
4/22(月)～23(火)	平成25年度利用予定団体及び今後利用を考えている団体の引率者	111名	講義：宿泊体験学習における効果的な自然の家の利用 実技体験：創作・野外・室内の各活動プログラム 説明：施設利用に当たっての留意点他 演習・実践：日課表の作成

【成果と課題】

昨年度同様、講義の中で安全管理に多く時間を配分するとともに、創作及び野外の実技体験の時間を最大限確保して実施した。また、あらかじめ日課表を作成して参加することが定着し、演習・実践における話し合いも円滑に進めることができた。その後利用した団体へのアンケートによれば、今年度も、この事業に参加したすべての団体が自然の家の利用が目的達成に役立ったと回答していることから、事業の目的は達成されたと考えている。

梵珠少年自然の家主催事業

【事業目的及び概要】

参加者相互のふれあいを深めながら、自然について学ぶとともに、自然に親しむ態度や豊かな心を育てることを目的として、自然の中で多様な体験活動を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 親子のつどい

活動名	期日	対象	参加人員	内容
①春・いっぱい	5/12(日)	小・中学校の児童生徒とその保護者	42名	ネイチャーゲーム、摘み草体験
②虫の世界をのぞいてみよう	8/25(日)		64名	昆虫の採集と観察
③秋・みつけた	9/29(日)		42名	ネイチャーゲーム、郷土料理体験
④梵珠わくわく体験ランド	10/27(日)		63名	野外活動体験、創作活動体験
⑤門松をつくろう	12/21(土)・22(日)		194名	本格門松づくり
⑥冬にとびだそう	2/1(土)～2(日)		53名	スノーシュー体験、そり遊び、雪灯籠づくり、親子クッキング

(2) 子どものつどい

活動名	期日	対象	参加人員	内容
①アウトドアライフ2013in サマー	8/6(火)～10(土)	小学校5年生から中学校3年生まで	45名	いかだづくり・いかだ遊び、登山、野外ゲーム、野外炊事、テント泊、キャンプファイヤー
②アウトドアライフ2014in ウィンター	1/10(金)～12(日)	小学校5年生から中学校3年生まで	33名	野外基地づくり、そり遊び、スノーシューハイキング、野外炊事、キャンドルサービス、メモリアルクラフト

【成果と課題】

「親子のつどい」では各分野に造詣の深い講師の指導による四季折々の自然体験活動や、参加者同士のふれあいを深める活動、親子が協力して取り組む活動など、多様な体験活動を実施した。いずれの事

業においても参加者の満足度は高く、今年度も充実した体験活動を実施できたと考えている。中でも、「門松を作ろう」は人気が高く、昨年度から2日間の開催とし、募集定員を120名から160名に増やして実施したが、希望に応じきれない状況が続いており、更なる定員増の工夫が必要である。

「子どものつどい」では、夏は昨年度から1泊増やし、4泊5日で開催したことにより、ゆとりを持ちながらも、より充実した体験活動を実施することができるようになった。冬は例年どおり2泊3日で開催したが、今年度は厳しい寒さの中での活動となった。どちらの事業においても、自然の豊かさと厳しさを実感する中で、仲間と協力して取り組み、達成したことによる成就感や周囲への感謝の気持ち、更には、自らの成長を実感している様子が窺われる感想が多く寄せられており、事業の目的は達成できたと考えている。ただし、冬は昨年度に引き続き、募集定員に満たない状況であることから、その要因を把握し、対策を講ずる必要がある。

自然体験活動支援事業

〔事業目的及び概要〕

自然体験活動の促進を図ることを目的として、身近な自然環境を活用して子どもたちが効果的に体験活動ができるよう、少年自然の家の職員が指導、助言などの支援を行う。また、指導者としての基礎的な技能の習得を目的とし、青少年向けの自然体験活動を効果的に行うための野外活動プログラムの実技体験や救急法等について研修する事業である。

〔事業内容及び結果〕

活動名	期日	対象	参加人員	内容
①レッツエンジョイ！ 自然大好きっず	4～5月、 10～3月	小学校、中学校、特別支援学校、PTA、青少年団体等	965名	ディスクゴルフ、スノーシュー体験、雪上運動会、雪灯籠づくり、棒パンづくり、焼きもちづくり、アイスクリームづくり、梵珠ブーメラン、チャカポコけん玉、フォトフレーム、バードコール、森からのプレゼントなど
②自然体験活動指導者 養成講座	5/18(土) ～19(日)	青少年教育、自然体験活動に興味のある方	9名	講義：自然体験活動指導の基礎 実習：ネイチャーゲーム、KYT、キャンドルサービス、ビンゴオリエンテーリング、ネイチャークラフト、心肺蘇生法及びAEDの取り扱い

〔成果と課題〕

職員が直接出向いて支援する「レッツエンジョイ！自然大好きっず」では、利用団体数は昨年度より5団体増加した。今年度も各団体のニーズに応じ、ディスクゴルフやスノーシュー体験などの野外活動、バードコールなどの自然物を使った創作活動、アイスクリームづくりなどの雪を使った活動など、多様な自然体験活動の場を提供することができた。

「自然体験活動指導者養成講座」は内容に対する参加者の満足度は高いが、参加者数が減少しており、対象及び周知方法について見直しが必要である。

種差少年自然の家

在学少年宿泊指導者研修

〔事業目的及び概要〕

種差少年自然の家を利用する小・中学校の引率教員を対象に、自然体験・生活体験を通して児童・生徒の「生きる力」をはぐくむために必要な知識・技能の習得を目的として研修する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- 開催日：4/22(月)～23(火)
- 対象：平成25年度利用小・中学校及び特別支援学校の引率教員
- 参加人数：80名
- 内容：講義 社会教育施設としての少年自然の家、自然の家の効果的な利用の仕方
実習 活動プログラムの実習（野外、自然、創作活動、夜の活動）、施設等の利用方法
演習 活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認

【成果と課題】

限られた時間の中で参加者は講義や説明・自然災害等による緊急時の安全対策の確認・プログラム実習・打合せ等に意欲的に臨み、自らが活動や生活体験をすることで、宿泊学習の引率者として必要な知識や技能を学ぶことができた。また、今年度夜間の火災を想定した避難訓練を実施した。その結果、避難指示、消防への通報、施設職員との連携等の確認ができたことで引率時の不安解消につながった。さらに、6月から9月末までの繁忙期に、雷雨等の天候の急変による計画の変更等において、大きな混乱や事故等がなく、この研修が生かされたと感じる。よって、目的は概ね達成することができた。

今後も引率者の資質向上や安全対応訓練や事前指導を徹底し、危機管理能力の資質向上に努めたい。

種差少年自然の家主催事業

【事業目的及び概要】

小・中学生が家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましい子どもに育てることを目的として、自然体験活動やキャンプ活動、創作活動など様々な活動を体験する機会を提供する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 自然と遊ぼう

活動名	開催日	対象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「春のハイキング」	5/12(日)	小・中 学生と その保 護者	79名	春の自然を楽しもう (種差海岸ハイキング等)
たねさしワールド 「エンジョイ!海遊び」 ①② ※2回開催	7/6(土)		118名	海で思いっきり遊ぼう (いかだ、カヌー、サンドクラフト、 磯遊び等)
	7/7(日)		134名	
たねさしワールド 「親子の絆」①② ※2回開催	10/5(土) ~6(日)		56名	親子で泊まって楽しもう (昔遊び、親子クッキング、ナイトハイク 等)
	10/12(土) ~13(日)		52名	
たねさしワールド 「つくって新発見」	12/1(日)		102名	つくって楽しもう (クリスマスリース等)
たねさしワールド 「エンジョイ!雪遊び」 ①② ※2回開催	2/1(土)	89名	雪で思いっきり遊ぼう (スノーチューブすべり、そり遊び、スノ ークラフト等)	
	2/2(日)	91名		
たねさしワールド 「こども大作戦」①② ※2回開催	2/15(土) ~16(日)	小3年 ~4年	47名	子どもだけで泊まって楽しもう (仲間づくり、レクリエーション、夜の冒 険等)
	3/1(土) ~2(日)	小1年 ~2年	38名	

(2) 子どもの祭典

活動名	開催日	対象	参加者数	内 容
おいでよ! サマーキャンプ	7/25(木)~ 28(日)	小5 ~中3	34名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・ナイトハイク ・海での活動 等
わくわくどきどき ウィンターキャンプ	12/25(水) ~27(金)	小5 ~中3	24名	・冬のテント泊の体験 ・野外炊事 ・冬の野外活動体験 ・森での活動 等

【成果と課題】

自然と遊ぼうでは参加の親子や友達同士のかかわりを深めながら、自然の中での活動を存分に楽しむ様子が見られた。アンケート結果から参加者の満足度も極めて高い評価を得ることができ、心豊かでたくましい子どもの育成に貢献できたと感じている。

子どもの祭典のサマーキャンプは地域の特性を活かした磯遊び、海水浴等の自然体験を仲間と交流しながら楽しんだ。ウィンターキャンプは、季節の特性を活かした森探検、アニマルトラッキングなど冬の自然を楽しんだ。人の温かさや星空など自然の美しさに感動する場面や厳しい冬の自然の中でたくましく生き抜く動植物に驚嘆するなど、心豊かでたくましい子どもを育むという目的を達成することができたと感じる。

事業内容が認知され、初めての参加者の割合が増加し、希望者が定員を超えている状況である。活動の安全を確保しながら多くの参加者を受け入れることができるよう、内容や持ち方を工夫しながら事業を充実させていきたい。

自然体験活動支援事業

〔事業目的及び概要〕

学校や身近な野外活動場所で子どもたちに自然体験活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に出向いて自然体験活動の現地支援を行う。また、自然体験活動の指導者の資質向上を図ることを目的として、小中学校及び関係機関等の指導職員を対象に研修を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

活動名	開催日	対象	参加者数	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5月 及び 10月～3月	三八、上北管内の 小・中学校、児童館、 公民館、青少年団体 や成人団体等 ※15名以上の団体	69団体 延べ 8,797人	・種差少年自然の家のプログラムの中で出前対応可能なもの (せんべい焼き、どんぐりアート、動物マグネット、フライパンピザ等)
自然体験活動 研修会	6/16(日) ～17(月)	幼・小・中学校教員、 高校・大学生、その他 自然体験活動の 指導者等	45名	・アドベンチャーゲームや野外活動 ・野外炊事や創作活動等のプログラム実習 ・自然体験活動にかかわる講義、演習等

〔成果と課題〕

自然体験活動出前講座の利用について上北地域の小学校にも広く認知された。利用団体が増加し、対応できず断ることもあったが、学校、児童館、仲よしクラブ等の多くの方々に利用していただき自然体験活動の場を提供でき目的を達成することができた。

自然体験活動研修会は、教員、当施設ボランティアの会員や少年団体の指導者などに対し、野外体験活動に関する知識や実践的スキルを高めることができ、資質向上が図られた。また、海辺の活動時に地震発生、その後の津波警報発令に伴う避難訓練を実施した。その結果、緊急時の引率者の対応、施設職員との連携のあり方、避難経路など安全対策について実践的に学ぶことができた。

参加者が定員を割っているが、概ね目的を達成できたと感じている。今後は、広報活動等の改善を図り、自然体験活動研修会の参加者が増えるよう工夫をしたい。